

2025（令和7）年度 文学部環境地理学科 外国人留学生入学試験問題
小論文（日本語）

問題

次の（ア）と（イ）の文章は、日本の高等学校で習う地理の科目の教科書での解説に基づいて作成されている。（ア）と（イ）の文章を読み、日本の地形・地質、気候・気象による自然災害とその要因や実態に関する下の設問(1)～(6)に答えなさい。

（ア）

日本では、①台地のへりや低地の自然堤防上などの微高地に、人々が古くから住んできた。しかし人口増加により、②起伏に富む傾斜がけわしくない丘陵、③後背湿地へと居住地がひろがった。

近年、多数の台風の接近や上陸、積乱雲の発達による局地的大雨、数時間から1，2日の間続く集中豪雨などの気象現象が日本各地で起こるようになった。そのため、丘陵では土石流、後背湿地では河川水が氾濫する被害が、毎年のように起こっている。特に大都市では、降水が下水から溢れ、地下街やアンダーパスが浸水する都市型水害が生じやすい。舗装面の増加により降水の地中への浸透が減り、かつての遊水池や湿地が居住域として利用されていることが、その要因である。都市域での洪水による浸水災害を防ぐため、地下数十メートルの箇所に巨大な調節池を造成している地域もある。

（イ）

日本列島は、④太平洋プレート、北アメリカプレート、ユーラシアプレート、フィリピン海プレートの4枚のプレートが押し合うプレートの境界に位置するため、地殻変動や地震、火山活動が世界で最も活発な地域の一つとなっている。海洋プレートは地下約100kmで大量のマグマを生み、地上に火山帯を形成する。火山地域では溶岩や火砕流の流下、火山灰の降下などの被害を受ける一方、地熱発電や観光開発などが盛んである。プレートの境界や活断層に沿って岩盤がずれると、地震が発生する。地盤が軟弱な沖積平野では地震のゆれが増幅しやすく、旧河道跡・水田跡・埋立地などの市街地では、液状化現象による災害が発生しやすい。

- (1) 下線部①について、「台地のへりに人々が古くから住んできた」理由、「低地の自然堤防上などの微高地に人々が古くから住んできた」理由を、それぞれ考えて述べなさい。
- (2) 下線部②において起こる気候・気象災害、下線部③において起こる気候・気象災害を、それぞれ述べなさい。
- (3) （ア）の文章中に書かれている、日本の大都市において都市型水害が起こる理由、日本の大都市において都市型水害に対する防災対策として実施されていることを、それぞれ述べなさい。
- (4) （イ）の文章中に書かれている、火山地域が受ける負の影響、正の影響を、それぞれ述べなさい。
- (5) （イ）の文章中に書かれている、地震の時に氾濫原などの平野部に所在する市街地で発生しやすい災害と、その要因を述べなさい。
- (6) 下線部④について、日本列島にある4つのプレートの境界を、答案用紙の地図の中に描きなさい。その上で、1995年以後日本で起こったエネルギー量・震度および被害の大きかった地震A～Eの中から2つ例として挙げ、プレートや断層などとの関係を踏まえどのような特色の地震であったかを、それぞれについて100字～150字程度にまとめて述べなさい。
A 1995年1月17日 阪神・淡路大震災 B 2004年10月23日 新潟県中越地震
C 2011年3月11日 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）
D 2016年4月14日 熊本地震 E 2024年1月1日 能登半島地震